GRESS

株式会社グレス

User's Manual
取扱説明書

GRESS ウッドチッパー (GRSWDCC-105)

作業を行う際は必ずスロットルレバーを高回転にして
ご使用ください。
不完全燃焼で燃料がマフラーへ入り、**発火**する恐れがございます。



パッケージと型式名は
製造ロットにより
変わっている可能性があります。
中身は注文された製品です

ご使用前に必ずお読みください。

・輸送の都合上、排出口を外した状態で発送しています。
到着後組み立てが必要になります。
・輸送(運搬時)にボルト類がゆるみますので必ず増し締めしてください。
・弊社にて試運転しており、エンジンオイル、ギアオイルは
規定量入っておりますが、
輸送の都合上ガソリンは抜いた状態で出荷しています。
ご使用前にガソリンを規定量入れて各部グリスアップを行い
試運転で状態確認後からご使用ください。

最終ページに問い合わせ先などの
情報を記載しています。
無くさないよう大切に保管してください。

はじめに

この度はグレスウッドチッパークローラ(GRSWDCC-105)をご購入いただき、
誠にありがとうございます。

注意事項

・本説明書には使用前の注意事項、部品図、メンテナンスについて重要な説明を
記載しています、ご使用前に必ずお読みいただきますようお願いいたします。

保証内容

・本機具の保証期間は商品到着日より１ヶ月になります。

・以下に該当する場合は保証対象外になりますのでご注意ください。
弊社では一切の責任（および費用）を負いかねますのでご注意ください。

1:本説明書をお読みにならずに使用された場合やメンテナンス不備
　本来の用途とは異なる目的で使用した場合
2:刃など消耗部品の劣化
3:お客様の整備による不備、過失、分解および改造による不具合
　およびそれに起因するけが、事故、損失
4:本説明書に記載のない方法で使用したことによる不具合
5:使用に支障のない塗装ムラ、気泡、キズ、へこみなど
6:故障後、弊社の同意なく修理をおこなった場合
7:故障に伴う経済的損失
8:作業中に本機具が異物（大きな石や岩など）に当たった衝撃で故障した場合

※上記に該当しない不具合につきましては部品交換にて対応いたします。

初期不良

※ヤフオク落札は対象外となります。

・初期不良は商品到着後７日以内に弊社に連絡いただいた場合が対象になります。
・初期不良が認められた場合は無償で同品（新品）と交換いたします。
購入品のため、お届けまで数か月かかる場合がございます。

以下に該当する場合に初期不良と認定致します。
・開封時に確認できる製造、配送に起因するあきらかな異常
・試運転（到着後７日以内）にて見受けられる異常や故障

安全運転のために

・事故を未然に防ぎ安全に作業するためにも本説明書の記載事項を必ず守ってください。
守らないと死亡、傷害事故や本機具の故障につながる恐れがあります。
※本機具の連続使用は、機械の故障を防ぐため、最大20分までとしてください。
２０分使用した場合は必ず10～１５分、本機具を休ませてください。

作業者について

・作業時は作業用手袋、安全靴、保護眼鏡などの安全防具を着用してください。
・可動部に挟まれると危険ですので、服装はだぶつきのない物を着用してください。

このような場合は使用しないでください

・過労、病気、飲酒、妊娠、薬物の影響がある場合、年少者や操作に慣れていない人

※本説明書に記載されている使用方法および注意事項、警告などを
守らなかった場合の損傷や事故、法律違反について弊社は一切の責任を負いません。

グレス ウッドチッパーについて

・古い乾燥した竹は粉砕できません。縦に割れて刃に巻きついてしまう可能性があります
気をつけてご使用ください。
・熱を持ちやすい部分には結束バンド等を使い接触を避けるように
ケーブル等をまとめてください。
・作業をおこなう際、周囲の状況、環境に気をつけて作業を行ってください。
・本機具の上に人や動物、物などを乗せないでください。
・本機具の周りに人（特に子供）を近づけないでください。
・本機具の下に入ったり脚を入れたりしないでください。
・本機具の整備、燃料などの注入などはエンジンを停止して
スイッチをオフにしてから安全な状態(平らな場所)で作業を行なってください。

燃料について

・一ヶ月以内で使い切るように調整してください。
・一ヶ月以上たった場合はガソリンを交換するようにしてください。
(特に屋外保管の場合、ガソリンが劣化して不純物が発生します。
不純物が燃料タンク内からキャブレター等にまわって故障、発火のおそれが
ありますので十分ご注意ください。)

安全確認

※本説明書に記載されている使用方法および注意事項、警告などを
守らなかった場合の損傷や事故、法律違反について当方は一切の責任を負いません。

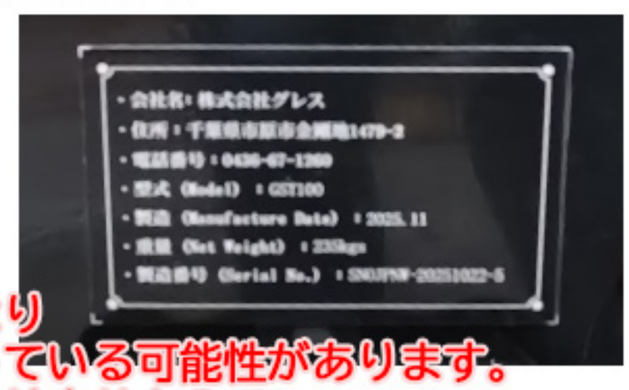
・安全のため、余裕を持った操作を心がけ、急発信・急停止・急旋回はしないでください。
・仕様変更による部品等の変更で説明書の内容が
一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
・排気ガスによる一酸化炭素中毒になる恐れがあります。屋内など換気が不十分な
場所では運転や作業を行わないでください。
・雨天時や水たまり等、本機械が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
・身体に静電気が帯電した状態では作業を行わないでください。気化したガソリンによる
引火の可能性があり、やけど・火災につながる恐れがあります。
・作業前にボルトの緩み、ベルトの張りなどの点検・整備を行い
異常がないことを確認後、作業を行ってください。
・シャフトやベルトなど回転（可動）部分で怪我をする恐れがあるので
手・足・髪・服が巻き込まれないように注意してください。
・破損・欠落・故障している部品は、使用前に交換してください。
燃料漏れがないか確認し、常に安全に使用できる状態を保ってください。

・作業後、毎回エアクリーナーの清掃をおこなってください。
清掃せず使用すると、フィルターが詰まりキャブレター・エンジンにゴミが入ることにより
バックファイヤー・アフターファイヤーが発生し、本機が動かなくなることがあります。

・エンジン始動前に本体についた木のゴミや刃に付いた汚れを清掃するようにしてください。
・燃料タンクの補給は必ずエンジンを停止後、冷めたことを確認してから行ってください。
・本機を子供に使わせないでください。
・整備を行う場合は、エンジンおよび可動部が停止していることを確認後
作業をおこなうようにしてください。
・作業開始前、必ず周囲の安全を確認してから始動してください。
・飛び石や障害物などへの衝突を防ぐため、障害物は取り除いてください。

プレート・ステッカーについて

・本体についているプレートには製造時期、
製造番号が記載されています。
お問い合わせの際、必要になりますので
画像もしくはメモをとる等控えておいてください。
・ステッカーには注意事項が記載されています。
使用方法を遵守してください。



製造ロットにより
型式名が変わっている可能性があります。
製造番号は変わりませんので
メモをとって控えてください

使用前の確認

・本機具使用前に以下項目を確認いただき、調整してからご使用ください。
1:各部チェック➡ボルト類は緩みやすいため、ご使用ごとに必ず増し締めしてください。
　またカバー類がはずれていないか確認してください。
2:燃料➡出荷時はガソリンを抜いてありますので、必ず給油をしてください。
　燃料タンク上部は数センチ空けてください。※（古いガソリンは使用しないでください）
3:ギアオイル・エンジンオイル
　弊社にて整備時、試運転してギアオイル、エンジンオイルは規定量入ってます。
　【各種オイル・燃料について】に交換目安を記載してますので適宜交換を行ってください。
　➡空の状態で始動すると故障の恐れがあります。必ず規定量まで入れてください。
4:燃料、各種油漏れについて➡燃料や各種油が漏れていないか確認してください。
5:グリスアップ➡可動部のグリスアップおよび潤滑油を塗布してください。
6:クローラ（キャタピラ）➡亀裂や破損がないか確認してください。
7:ナイフ・ブレード部分➡ゴミ等が挟まったり絡んでいないか確認してください。
　刃が劣化していないか、取り付けに緩みがないか確認してください。
8:本機具の清掃➡エンジン周り等にゴミや粉砕した粉塵が付着していないか確認してください。

保管について

日常保管

燃料コック、チョークをそれぞれ〔左端〕に合わせた状態で
保管するようにしてください。



長期保管

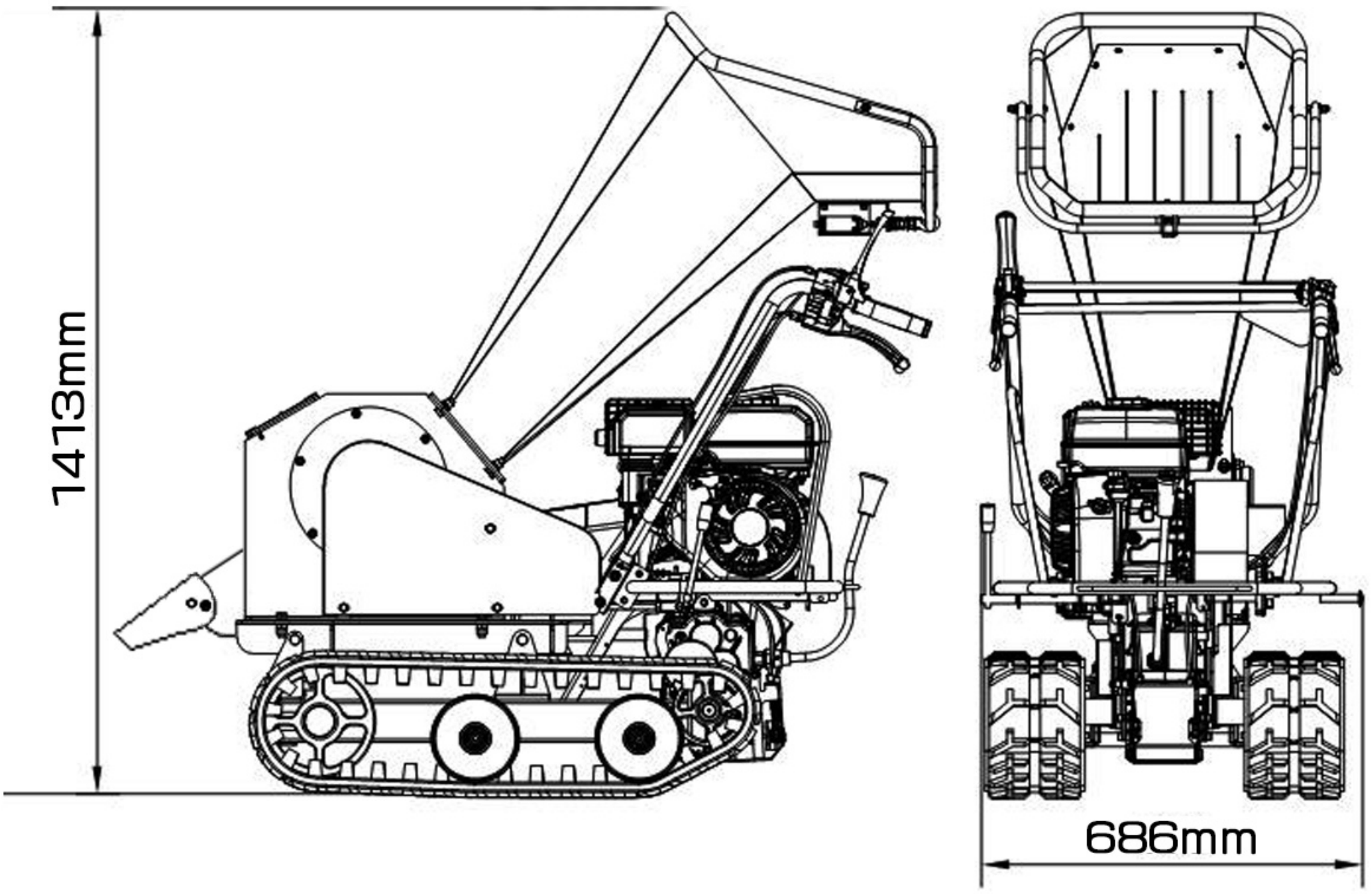
エンジンオイルを交換してください。

1：半年から一年以内まで保管の場合
　ガソリンタンクの錆防止のため、ガソリンを規定量まで入れてください。

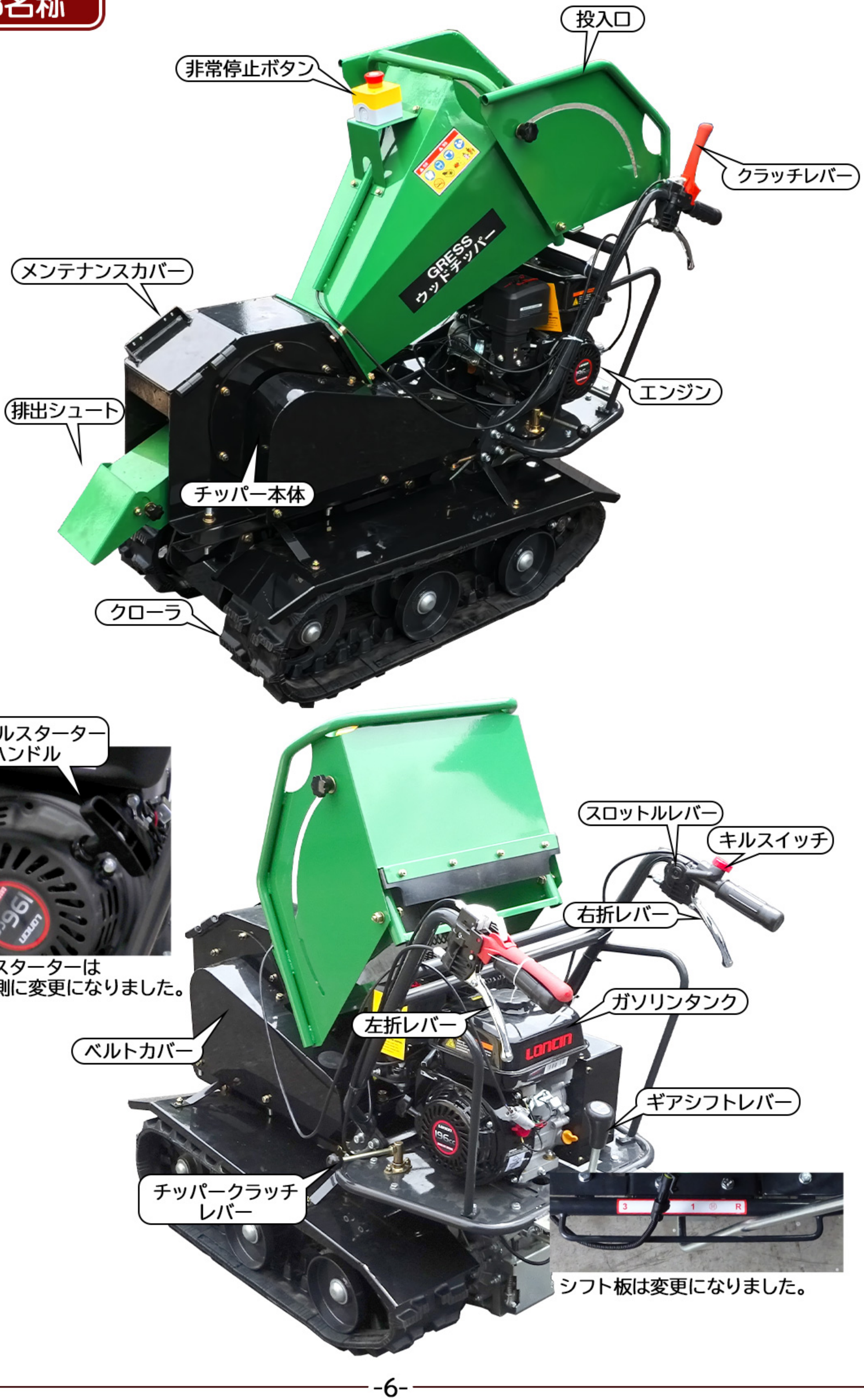
2：１年以上保管する場合
　ガソリンを抜いて、エンジンを始動し停まるまで放置し、
　ガソリンを完全燃焼させます。
　ガソリンタンクの熱が冷めたら、ガソリンタンク内に防腐剤を施して
　保管するようにしてください。

性能諸元

仕様	
エンジンブランド	Loncin196cc
走行出力・チッパー用出力	7hp（馬力）４ストロークガソリンエンジン
駆動方式	ダイレクトベルト駆動（遠心クラッチ）
刃数	切削刃2枚/固定刃1枚
粉砕能力	100mm/4
カッターホイール回転数	2000rpm/min
排出シュート	下向き排出シュート
クローラー幅	180mm
変速	前進3速+後進1速
正味重量/総重量	235kg/260kg
梱包サイズ	1370mm×775mm×1555mm



各部名称



リコイルスターターは
ハンドル側に変更になりました。

シフト板は変更になりました。

組み立て

・輸送（運送）の都合で分解された状態で梱包しております。
必要な工具をご用意いただき組み立ててください。



付属品:投入口
排出口（排出シュート）
緊急停止スイッチ・ケーブル
プラグレンチ
エンジンマニュアル
ユーザースマニュアル

必要な工具:
スパナもしくはソケット、六角レンチ
ソケットがある場合はインパクトドライバー
もしくはソケットレンチ・
ソケットがない場合は
スパナをそれぞれ２本ずつご用意ください。

ハンドルパーツの取り付け

梱包を外した状態でハンドルパーツが別になっています。
ハンドルを取り付けてください。







ハンドルを固定する位置にボルトが
ついてますので、
位置を合わせて取りつけてください。

前方ふたつのボルトを外します
ハンドルを外側（手前側）になるように
位置を合わせて取り付けてください。

手前ハンドル下の
ボルトを外し
ハンドルパーツの
位置を合わせて取り付けます。

片方ができましたら
反対側も同様に取りつけてください。

緊急停止ボタンの取り付け



投入口に緊急停止ボタンを台座の穴と
投入口の穴に合わせて取り付けます。

投入口を取りつけた後、ケーブルのカプラーをつないで
エンジンをかけた後、作動を確認してください。

組み立て

投入口の取りつけ

投入口を取り付けます
その前に、取付口の横にあるベルトカバーを
外してください。





投入口の上部分にあるヒンジピンを
通す穴の位置に合わせて重ねます。



ヒンジピンを通して
ピンを外れないように割りピンで止めます

割りピン





投入口の両脇のボルトを留めて固定します
刃の交換やものが詰まった時に
止めたネジを外せば投入口が開けられますので
活用してください。

緊急停止ボタンのカプラーを接続して作業完了です。
ベルトカバーを取り付けなおしてください。

排出口（排出シュート）の取り付け

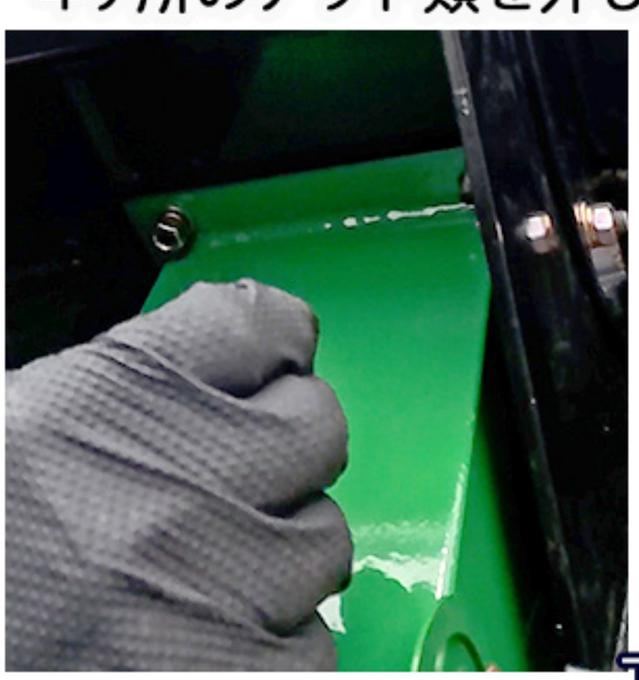
正面メンテナンスカバー下にある
排出口に排出シュートを
取り付けます。

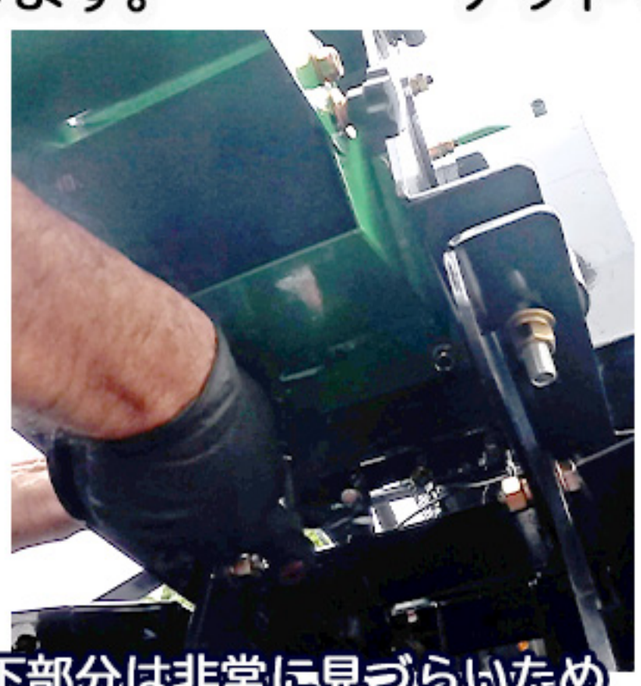


排出口にあらかじめ付けられている
４ヶ所のナット類を外します。



外したあと見えるボルトの芯に合わせて
脱出シュートを合わせて、
ナットで取り付けていきます。





下部分は非常に見づらいため
気をつけて取り付けてください。



取り付け完了です。
排出シュートの出口部分は
作業状況により口の角度が調整可能です。

各種オイル・燃料について

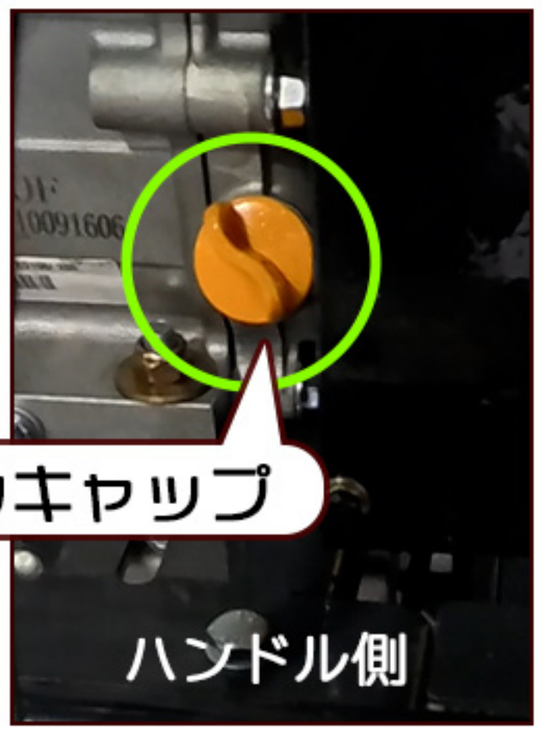
・輸送(運送)の都合でガソリンを抜いた状態で出荷しています。
ご使用前に必ずガソリンを規定量まで入れてください。
空焚きは故障の原因となります。保証対象外となりますのでご注意ください。
弊社で試運転、整備をしており、エンジンオイル、ギアオイルは規定量入った状態です。
交換目安を参考に適宜交換を行ってください。

エンジンオイル

10W-30/5W-30(0.6L)
注入口:画像の黄色キャップ(レベルゲージ付き)
2ヶ所ありますが、シフトレバー取り付け部上の
注入口の方が入れやすいです。
初回は５０時間（慣らし運転）、
それ以降は50時間ごとに交換してください。







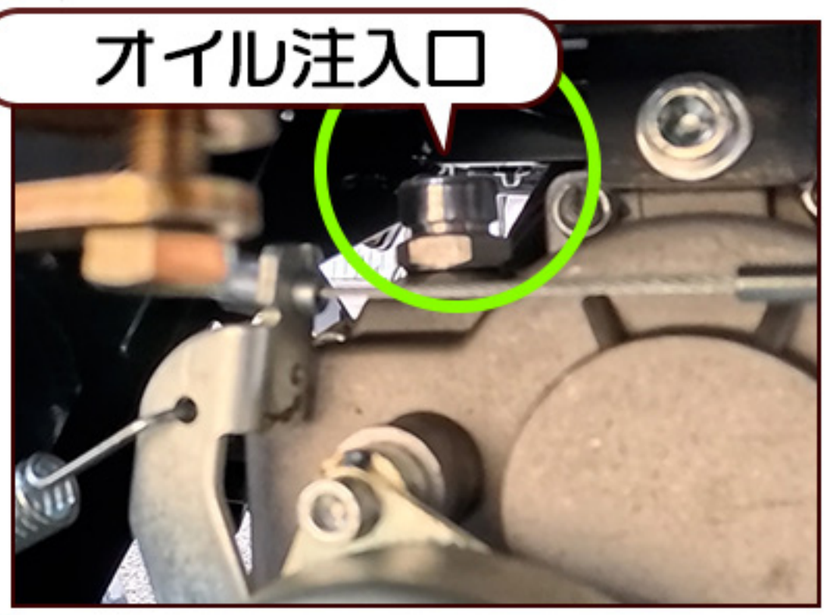
注入口の黄色キャップにレベルゲージがついてます。
〔H〕直下で保つようにしてください。
オイル交換の際は下にドレンボルトが付いていますが、排出しにくい場所にあるため
注入口よりオイルチェンジャー・オイルシリンダー等で抜いてください。

ギアオイル

80W-90(適量1.5L)

最初、点検口を確認して、オイルが
適切に入っているか確認してください。

注入口:下画像右の灰色キャップ
初回は50時間(慣らし)、それ以降は50時間ごとに交換してください。
※1.2L以上いれると給油口よりオイルが噴き出すことがありますのでご注意ください。
万が一噴き出した場合はギアボックスまわりを灯油で拭いて掃除してください。
（パーツクリーナー等では落としきれずギアボックス下からオイルがたれることがあります。）





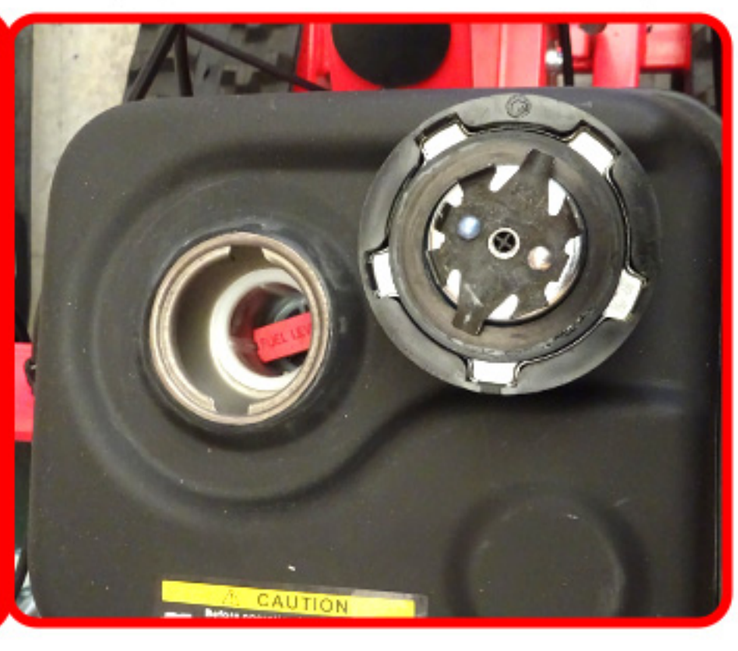


燃料・レギュラーガソリン

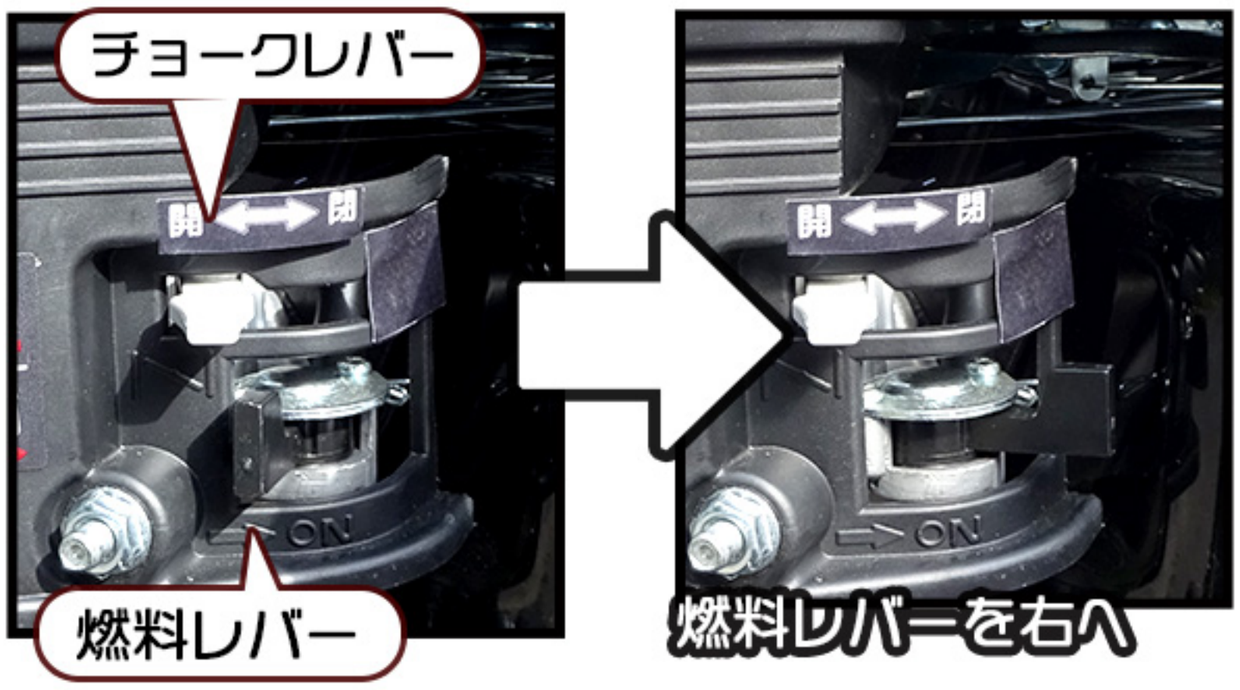
(タンク容量3.6L)
注入口:エンジン上タンクのキャップ
タンク内部の赤いゲージまで入れてください。赤いゲージより上に入れないでください。



※密閉型のタンクではありません。
キャップから気化した燃料が出ています。
ゲージより上に燃料が入っていると
本体が傾くと燃料がこぼれることがあります。
ご注意ください。



エンジン始動方法



燃料コック(黒レバー)を
右に開けます。スロットルは
スタート位置(一番右側)に
あわせてください。

エンジン起動後
※チョーク全開の状態で使用すると
プラグかぶりの
原因となります。必ずチョークを
〔閉〕から右に1cm程度の位置まで
調整してください







エンジンの回転数は右ハンドルにある
スロットルレバーで調整します。
低回転➡高回転になります。
粉砕作業時はスロットルを
高回転にして使用してください。
※低回転では不完全燃焼でガソリンが
シリンダーからマフラーへまわって
発火の恐れがあります。

※チョーク全開の状態で使用すると
プラグかぶりの原因となります。
エンジン始動後は必ずチョークを〔閉〕から右に
1cm程度の位置まで調整してください。

エンジン停止

移動中の場合はクラッチレバーを上げ停止状態にして
ギアをニュートラルにし、
スロットルレバーの回転数を一番低くします。
エンジンをアイドリング状態にさせます。
エンジンにあるスイッチをオフにして
燃料コック・チョークを〔左端〕の位置に合わせてください。





粉砕作業中の場合はスロットルレバーの回転を低くして
燃料コック・チョークを〔左端〕の位置に合わせてください。



緊急時には

緊急時、右ハンドルにある
キルスイッチをOFFにするか
緊急停止ボタンを押すことで
エンジンを止めることができます。

また、起動するときは
キルスイッチがONに
ボタンが押下状態に
なっているか確認してください。
押下状態のままだと起動できません。





クローラ

・本機具はクローラ・ウッドチッパー部分が独立しています。
移動しながらウッドチッパーを作動しないように気をつけてください。
エンジン始動後チョークレバーを【閉】から右に1cm程度に合わせます

ギア選択（シフトレバー）



シフトは４段階（前進３速、後進1速）です。切り替える時は
変速レバーを数字に合わせて動かしてください。
各ギア位置でレバーが固定されます。
（変速する前に、必ずクラッチレバーを戻してください。
そのまま変速するとミッションが損傷するおそれがあります。）

右折・左折レバー（左右旋回）

レバーを握ることで左右に旋回します。

クラッチレバー



クラッチレバーを握るとクラッチが入り動きだします。
ハンドルと一緒に握ることで操作しやすくなります
レバーを離すとクラッチは切れエンジンは止まらず静止します。

スロットルコントロール

スロットルレバーを操作することでエンジン回転数を調整できます。

キルスイッチ



運転時に何かあった時、またはエンジンを切りたいときに使用します。
エンジンを始動する前には、必ずキルスイッチがONになっている事を
ご確認ください。（OFFになっているとエンジンはかかりません）

走行時の注意点

・操作に慣れるまでは低速での運転をおすすめします。
・低速は重い荷物向け、高速は軽い荷物や
　粉砕した量が少ない時、もしくは粉砕した物を積まない時にご使用ください。
・急激な方向転換や加速をしない。
　急発進や加減速ショックでクローラの損傷の原因にもなります。
・不整地はできるだけ低速走行をおこなってください。
　地形によってはバランスを崩し機械の損傷や運転上の事故の原因にもなります。
・障害物の乗り越えはできるだけ避けるようにしてください。
　やむをえず乗り越える場合はできるだけ低速で走行してください。
・負荷がかかってエンジン回転が落ちる時、クローラが滑るときは
　低いギアにシフトするようにしてください。

走行、旋回を避ける場所

・凸凹の多い岩盤、鉄筋などの上　➡摩耗が激しく損傷の原因となります。
・多量に大小の石がある場所　➡石が噛みこみ損傷、脱輪しやすくなります。
・油などが溜まっている場所　➡ゴムが劣化し損傷の原因となります。
・海岸などでの使用を避けましょう➡塩分によってクローラのパーツが浸食されます。

クローラ外れの要因

●クローラの張りが緩いと障害物を乗り越える時などホイールとクローラの間に
　すき間ができるので外れやすくなります、ので適切な張り状態を維持してください。
●段差乗り越え時旋回を避けてください。できるだけ段差に対して直角であるのが望ましいです。
●片輪上げ走行をおこなわない。
　斜面または凸地に片輪を上げ反対側が平坦な場所での使用を避けてください。
　旋回時にクローラが外れやすくなる可能性があります。
●登りながらの旋回を避けてください。
　どうしても必要な場合はゆっくり大きく旋回をおこなってください。

ウッドチッパーの操作

ウッドチッパーについて



ウッドチッパーは枝、茎、つる、葉、根など
乾いたものから有機素材まで幅広く粉砕処理ができます。
草木などの植物性素材は直径105mmまで可能ですが、
木の種類や硬さによって変わる場合があります。
枝を機械に送り込む際に回しながら入れるとより粉砕しやすくなります。
投入には、切りたてのものを処理するのがおすすめです。
木の枝は乾燥すると非常に硬くなり、弾力が出て刃が早く鈍りやすくなります。
ウッドチッパーは、柔らかいもの・湿ったもの・繊維質の材料で詰まることがあります。
柔らかい材料は固めの枝と交互に少しずつ投入するなど、工夫をして投入してください。

ウッドチッパーの操作

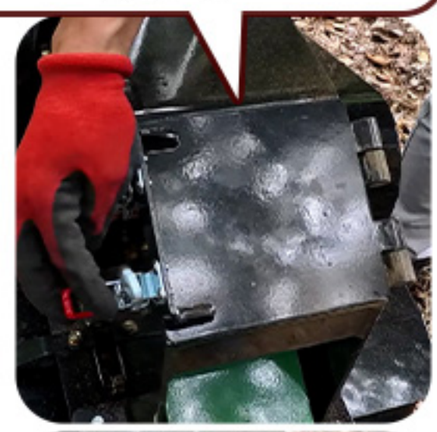
あらかじめ、エンジン始動前にチッパークラッチレバーをチッパーに合わせておきます。
エンジン始動後の場合は、チッパークラッチレバーを少しずつ
ゆっくりと奥まで引いてベルト駆動と噛み合わせますカッティングディスクが
回転を安定させるのに時間が必要なので必ずゆっくりおこなってください。
急な操作はカッティングディスクの慣性が大きくエンジンが失速するか
ベルトやギアに大きな負荷がかかる可能性があります。



投入

枝は切り口側を先にして投入し、葉の付いた側（枝先）は残したままにしてください。
枝が投入口（フィードホッパー）内をスムーズに下り、細かい破片が回って跳ね返り、
投入口側へ戻るのを抑えられます。
横にはみ出た枝によっては、事前に切り落とす必要があります。

運転中は、直径約3ｃｍ・長さ1メートル程度の木の棒を手元に用意してください。
短くて枝葉の多い材料を押し込んだり、投入口（フィードホッパー）内の
詰まりを防いで通りを良くしたりするのに役立ちます。



注意

材料を無理に押し込まないでください。
うまくチップ化しない場合は、カッティングディスク内チッパーナイフの研磨
または交換が必要なことがあります。
ナイフとウェアプレートのすき間調整が必要な場合があります。
一度に大量の材料を投入口へ入れて、チッパー本体にに負荷をかけすぎないように
してください。エンジン回転が落ちる音がしたら、ただちに投入をやめて
エンジンが規定の回転数まで戻るまでエンジンを運転してください。



機械内に残ったカスは、運転中に自然に排出されやすい構造です。
糸状の材料がローターシャフトに巻き付いた場合は、ベアリングに巻きつく前に
取り除くようにしてください
過負荷や詰まりでチッパーが停止した場合は、エンジンの電源スイッチを切り、
カッティングディスクが完全に停止し、ベルト駆動が解除されるまで待ってください。
エンジンが十分に冷えるまで待ってから、エンジンをOFF にします。
メンテナンスカバーを開け、内部のゴミをすべて取り除いてください。
メンテナンスカバーを確実にロックし、エンジンをON にして再始動し、作業を再開します。

排出物が大量（山）になってきたら、チッパーを排出したチップの山から離してください。
排出シュートへの逆流を防げます。
近いまま粉砕作業をおこなうと風量が落ちて排出が妨げられ、詰まりの原因になります。

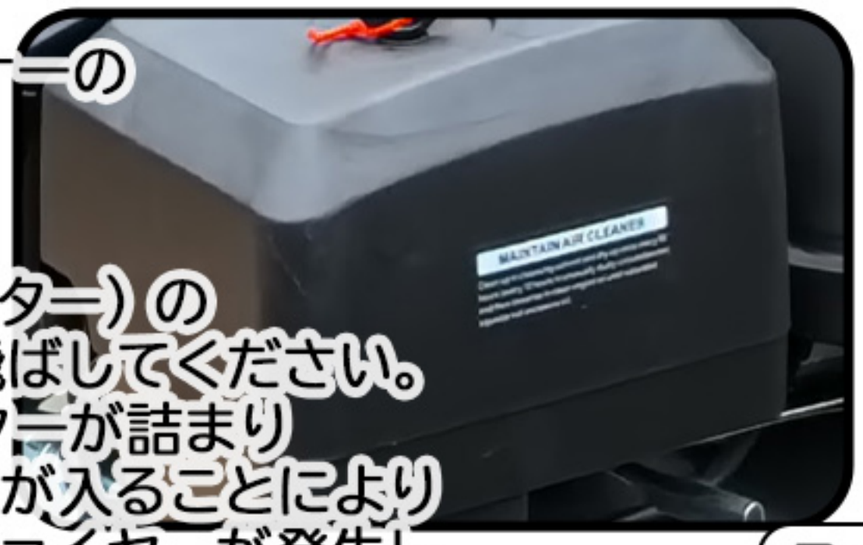
使用前に毎回、非常停止スイッチが確実に作動することを確認してください。
作動しない場合、重大なけがや死亡につながるおそれがあります。
粉砕作業を行わないときは、エンジンへの負担を減らすため、
スロットルレバーをLOW 位置にしてください。回転数を下げることで、
エンジン寿命の延長に加え、燃料の節約や騒音の低減にもつながります。



点検

エアクリーナー

前面から見て右のエアクリーナーの
カバーを外します。



作業後毎回エアクリーナーの
フィルタ（スポンジ・紙フィルター）の
清掃（エアブロー）で粉塵を飛ばしてください。
清掃せずに使用するとフィルターが詰まり
キャブレター・エンジンにゴミが入ることにより
バックファイヤー・アフターファイヤーが発生し
本機が動かなくなることがあります。



作業を行う場所はフィルターが詰まりやすい場所になりますので
注意してください。

フィルターの清掃を行わず、発生した故障・事故に関しては
弊社は責任を負いません　あらかじめご了承ください。

点火プラグ

前面から見て右のエアクリーナーをすべて外します。（外さなくても可能です）
点火プラグのプラグカバーを外し、付属のプラグレンチで点火プラグを外します。





点火プラグの先(電極)に付いたカーボンをナイロンブラシで
掃除してください。プラグが劣化している場合は
新しいプラグに交換してください。

スロットルケーブル

スロットルレバーについているケーブルですが、
使用しているうちに緩むことがあります。

- 今までと同じスロットル操作をしても、感覚が違う
- スロットルを動かしても回転数が変化しない。
- スロットルからワイヤーがはみ出している。



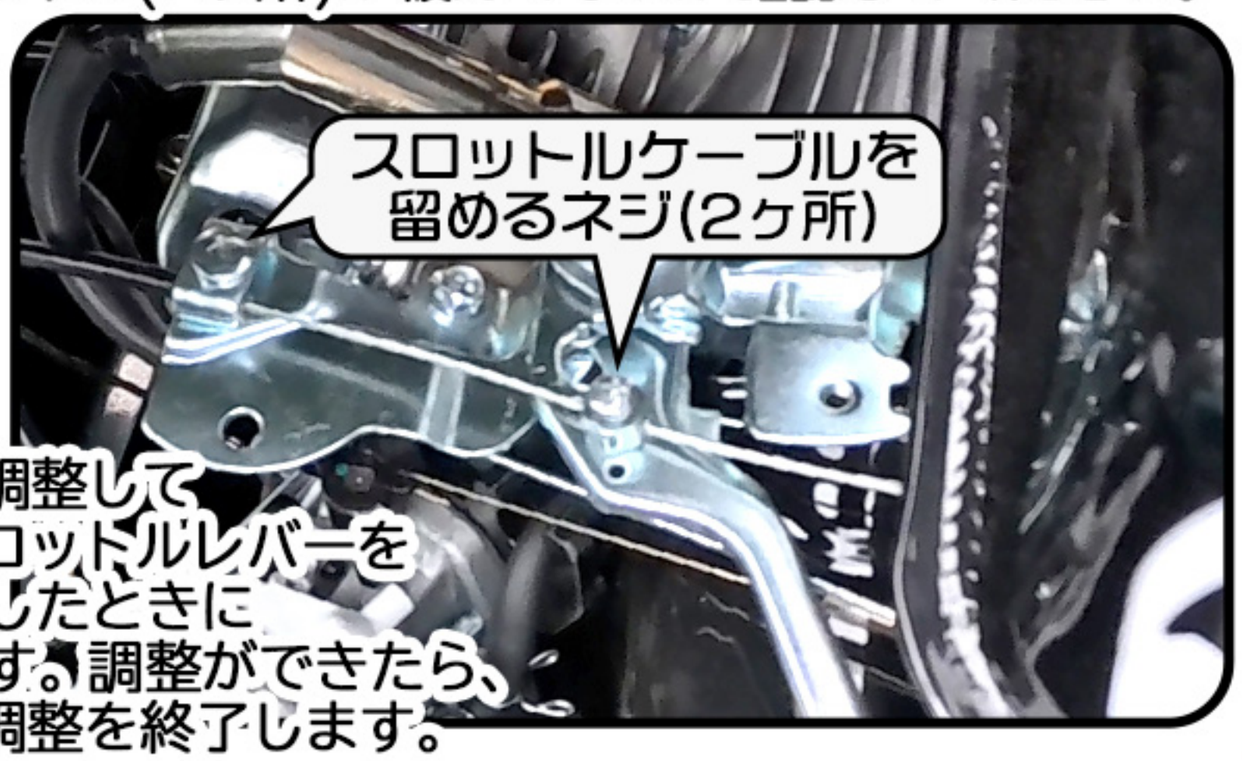
などの症状がではじめた時、早めのケーブル調整をお勧めしています。
ケーブルが緩むと回転数の調整ができなくなってしまいます。

スロットルケーブルの調整

1　エアクリーナーを全て外します。



2　エアクリーナー（全て）を外すと
スロットルのケーブル（ワイヤー）が見えます。
留めてあるネジ(2ヶ所)が緩んでないか確認してください。



3　ネジが緩んでいる場合はワイヤーの出具合を調整して
ネジを締めください。エンジンを切った状態でスロットルレバーを
高回転まで動かしスロットルレバーが低回転に戻したときに
ワイヤーが余りなく戻る状態が通常状態になります。調整ができたら、
エンジンを始動してチェックし、問題がなければ調整を終了します。

各種ケーブルの調整

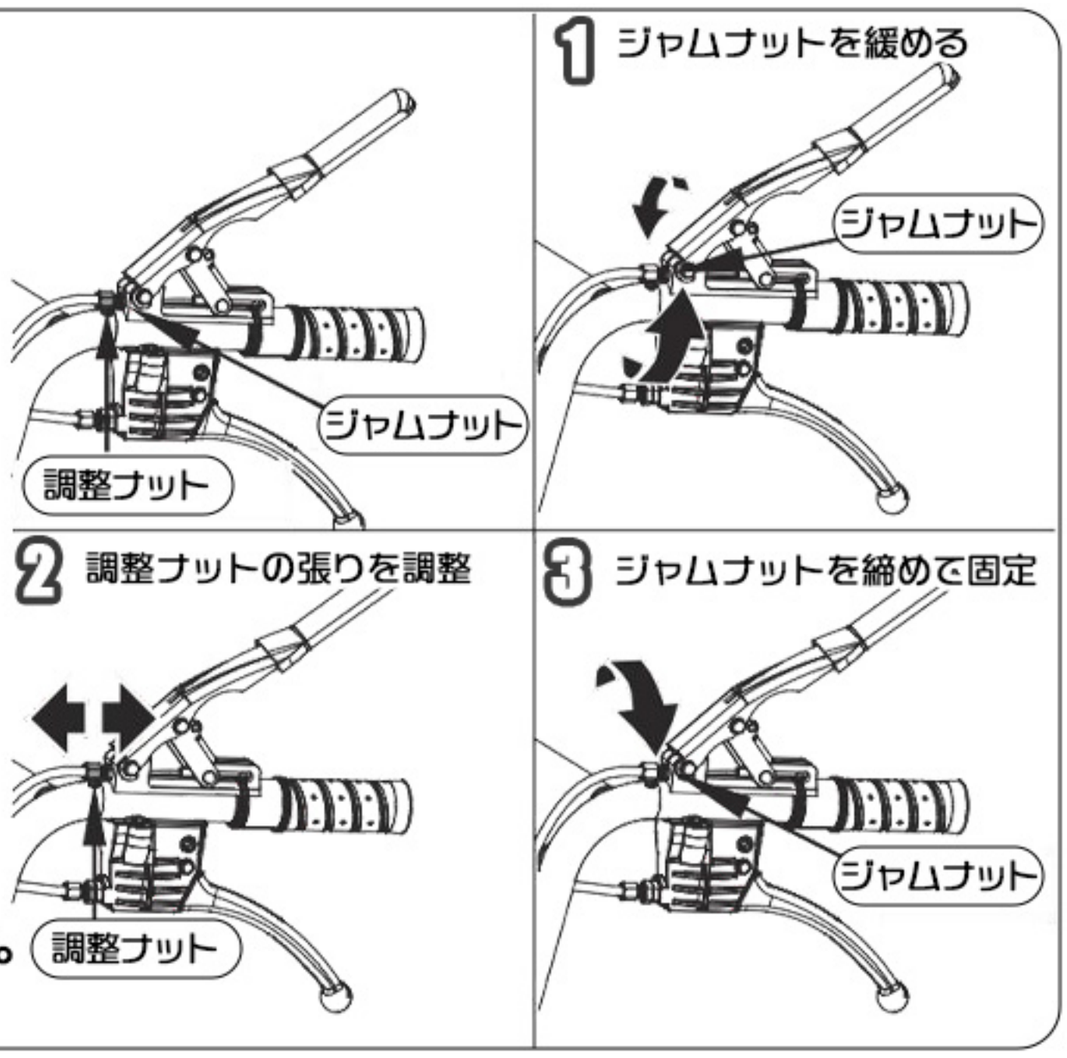
クラッチ・ケーブルの調整

クラッチレバー（ケーブル）の調整
クラッチが摩耗してくると、ハンドルの握り位置が遠くなり、操作しづらくなります。以下の手順で、クラッチレバーを元の位置に戻してください。

1・ 10mm レンチでジャムナットを反時計回りに回し、緩めます。

2・10mm レンチでケーブル調整ナットを時計回り／反時計回りに回し、希望の張り具合になるまでケーブルを締める／緩める調整をします。

3・ 張り具合が決まったら、ジャムナットをハンドル側へ戻して当て、ケーブルが動かないよう固定します。



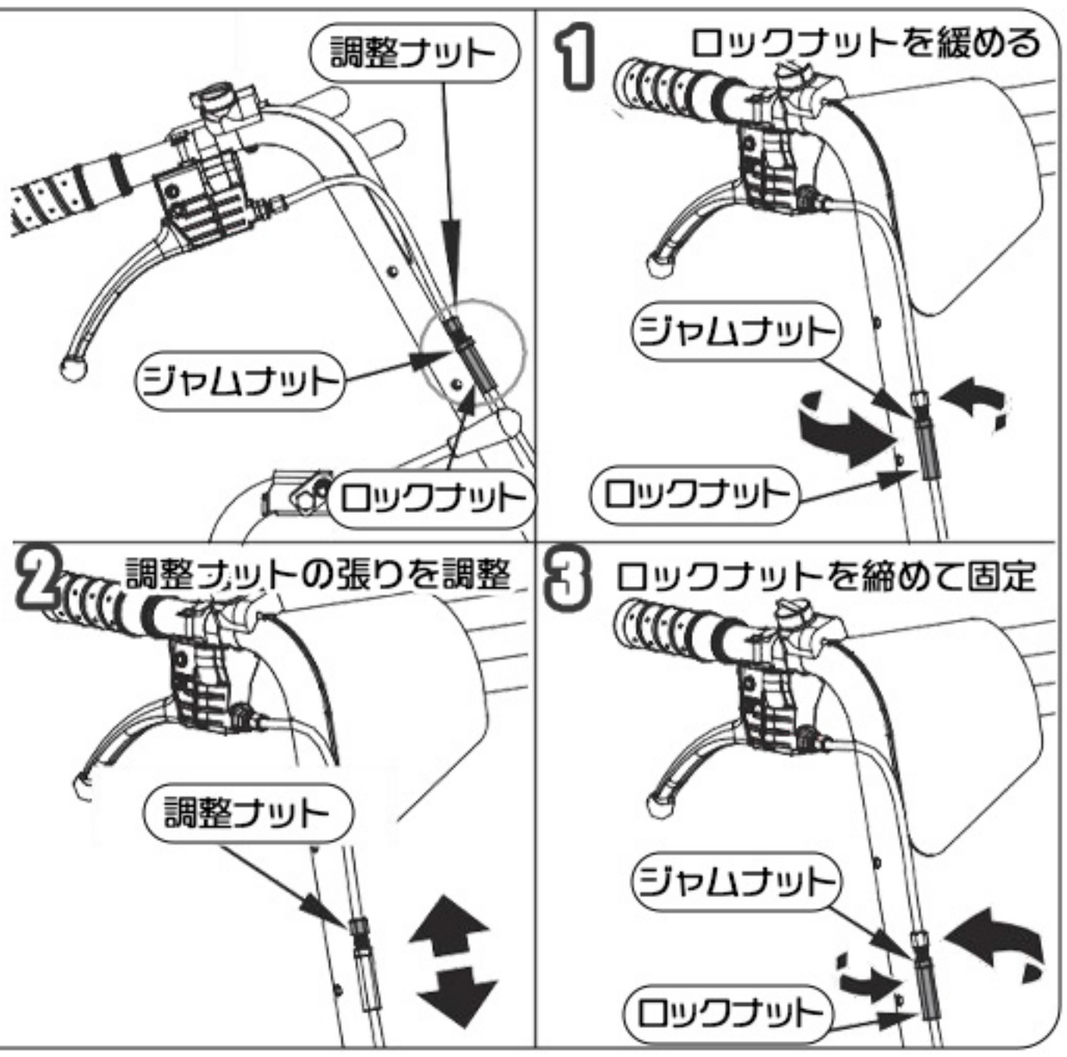
ステアリングケーブルの調整

ステアリングケーブルの調整
方向転換の操作が重く感じてきたら、以下の手順でケーブルの張りを調整してください。

1・10mm レンチでロックナットを反時計回りに回して緩めます。

2・10mm レンチでケーブル調整ナットを時計回り／反時計回りに回し、必要な張りになるまでケーブルを締めたり緩めたりします。

3・ 張りが決まったら、ロックナットをハンドル側へ戻して当て、ケーブルが動かないよう固定します



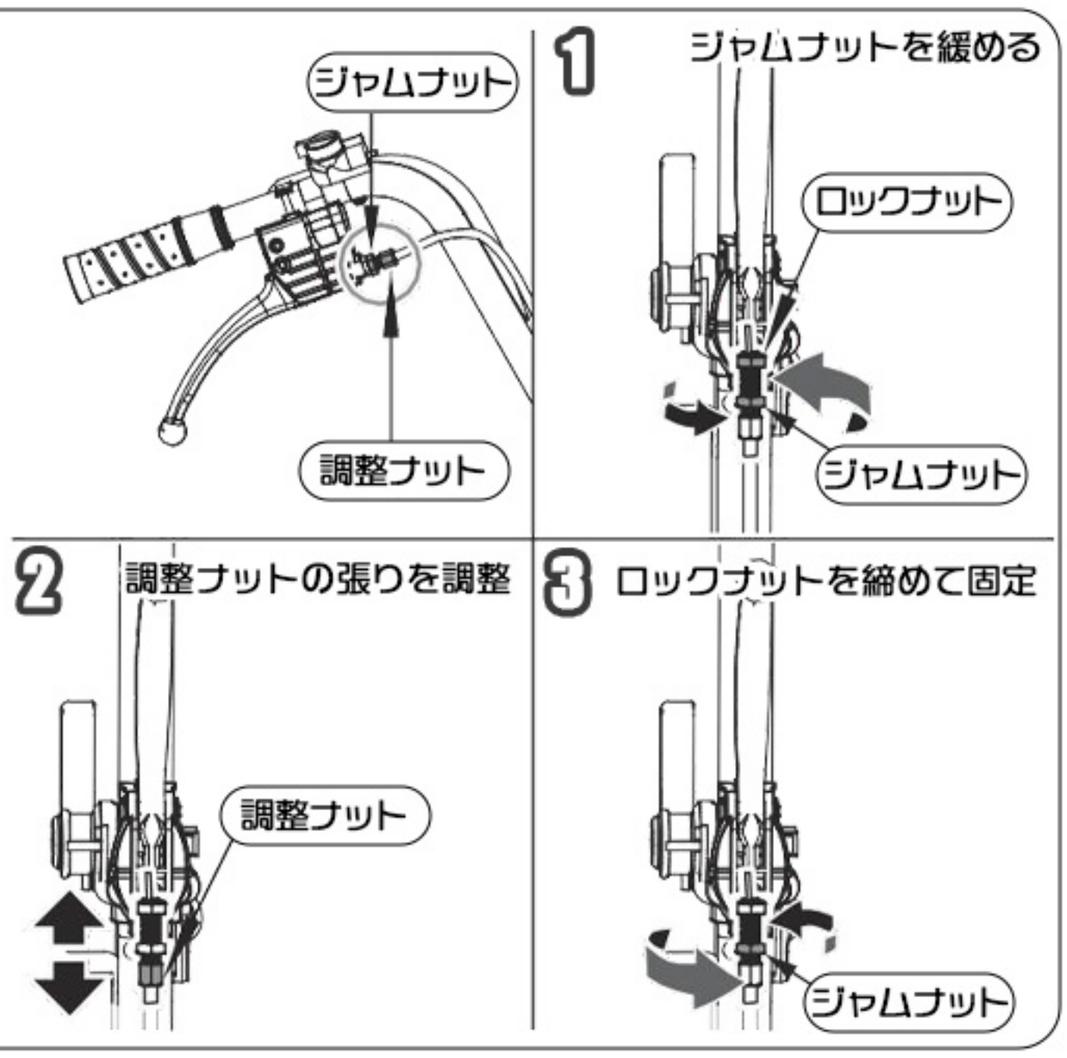
ステアリングケーブルの再調整

上記の調整でケーブルの張りが十分に得られない場合は、次の手順に従ってください

1・12mm レンチでジャムナットを反時計回りに回し、緩めます。

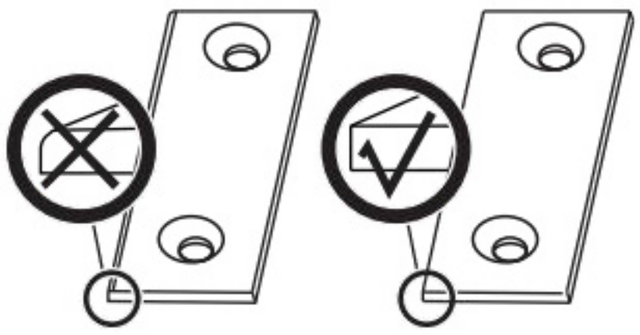
2・10mm レンチでケーブル調整ナットを時計回り／反時計回りに回し、必要な張り具合になるまでケーブルを締める、または緩めます。

3・張り具合を調整したら、ジャムナットをハンドル側へ戻して当て、ケーブルを固定します。



ウェアプレートの交換

・交換時期・



摩耗した状態
交換時期

通常使用状態

ウェアプレートのエッジ（角）の状態を
定期的に点検することで
ウッドチッパーを常に最大限の効率で運転できます。
角が歩くなったプレートを使用すると性能が低下し
過度の振動が発生して機械を損傷させるほか
チッピング作業が困難になります。

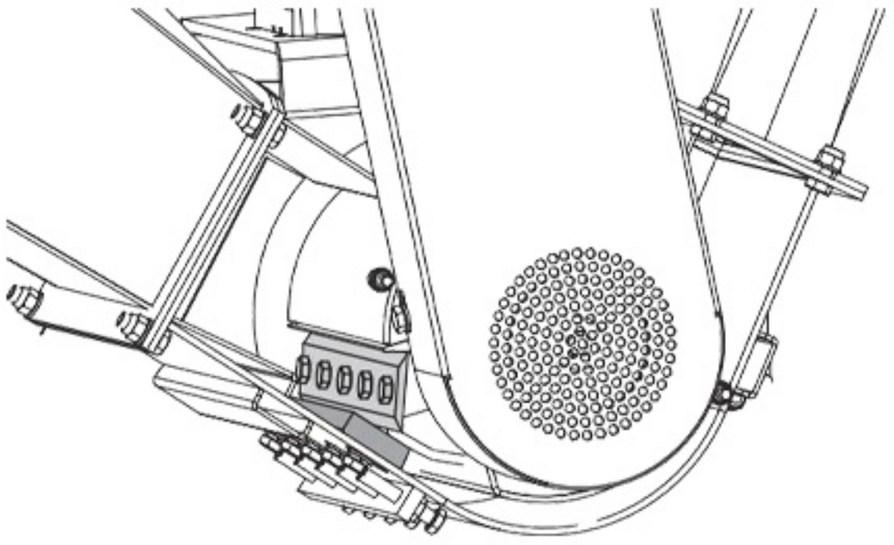
ウェアプレートの取り外しと交換

ウェアプレートは浸炭焼入れ処理されており、裏返して再使用できます。
通常、端部は長期間もちます。端部が丸くなってきたら、
裏返して使用してください。
ウェアプレートは再研磨できません。
浸炭焼入れにより硬化しているため、
研磨すると硬い刃先が失われます。
両側の端部が摩耗した場合は、ウェアプレートを
交換してください。



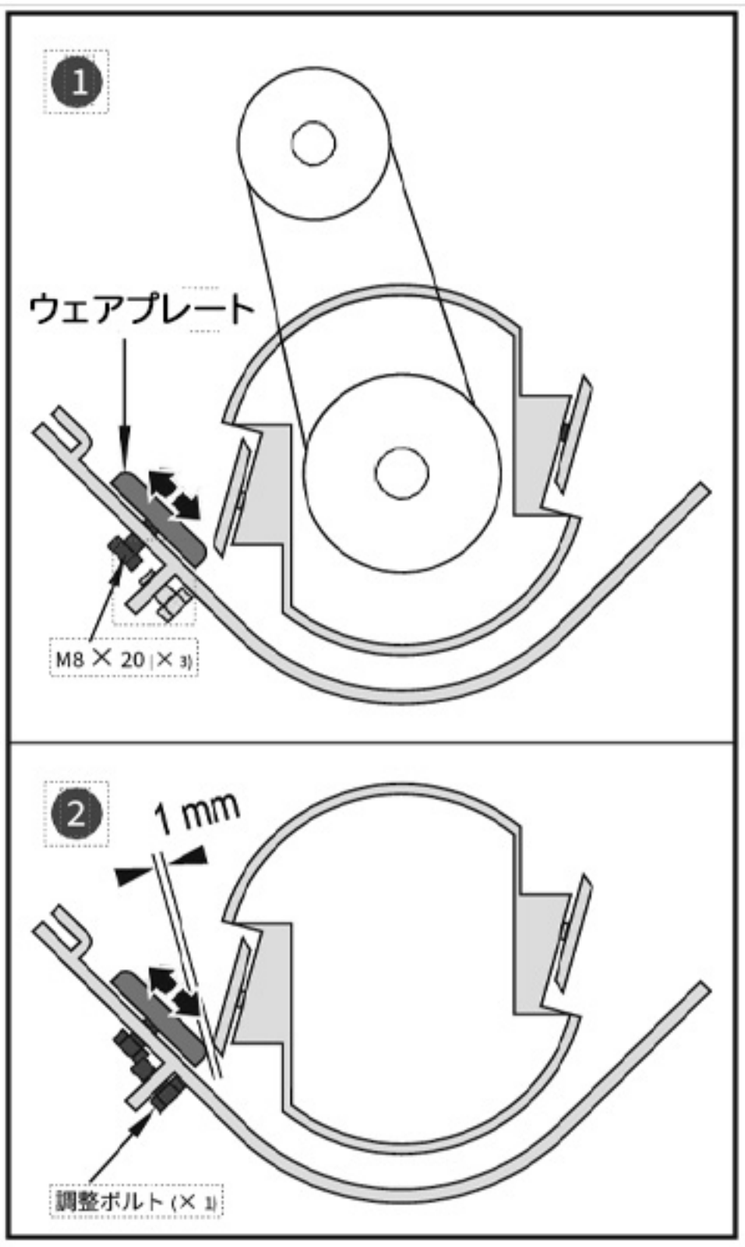
投入口の横にあるボルトを外し、ウェアプレートを取り出しやすい
状態にします。

ウェアプレートをチッパーアッセンブリに固定し
ているロックナットとボルトを外し、
ウェアプレートを取り外します。



1・新しいウェアプレートを取り付け、
ボルトとロックナットで確実に固定します。

2・ナイフとウェアプレートのすき間を
1mmの幅に調整してください。



・注意事項・

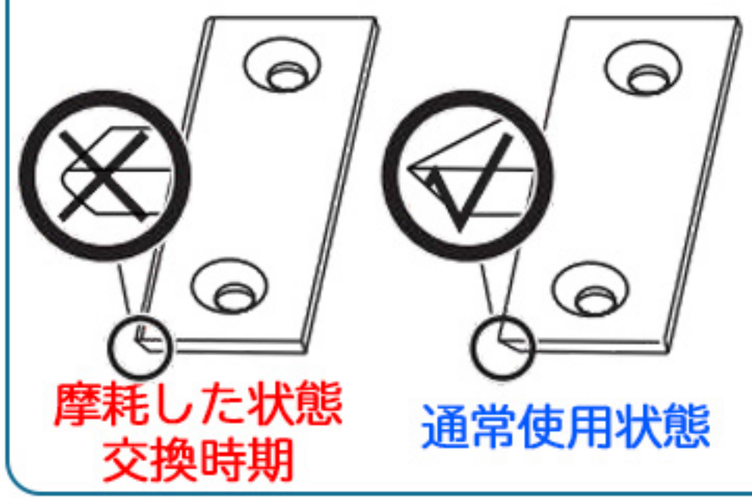
ウェアプレートの取り付けが適切でないと、
粉砕時に過度な振動が発生し、
ナイフが切れなくなったように感じられます。
すき間が不足している場合、太い枝を切断する際のたわみにより
ナイフ刃先がウェアプレートに接触し、
刃先を傷めるおそれがあります。
反対に、すき間が大きすぎると、小枝や繊維質の木が
切断されないまま引き込まれてしまいます。

整備または調整後は、棒を使ってカッティングディスクを回し、
異音・カチカチ音・振動がないか注意深く見て聞いてください。
いずれかが確認できた場合は、始動前に機械の損傷や
部品の緩みを点検し、修理・交換・増し締めを行ってください。

カッティングディスクの表面が十分に清掃されていない、
またはナイフがカッティングディスクに
正しく取り付けられていない状態で締結部品を締め付けると、
ナイフが割れるおそれがあります。

カッティングディスク内チッパーナイフの交換

・交換時期・



チッパーナイフの状態を
定期的に点検することで
ウッドチッパーを常に最大限の効率で運転できます。
切れ味の落ちたチッパーナイフを使用すると性能が低下し
過度の振動が発生して機械を損傷させるほか
粉砕作業が困難になります。

チッパーナイフの取り外しと交換

このウッドチッパーのカッティングディスクには、
2枚のチッパーナイフが取り付けられています。
ナイフの切れ味が落ちたり、目に見えるような刃こぼれが
生じたりしたら、交換の目安となります。



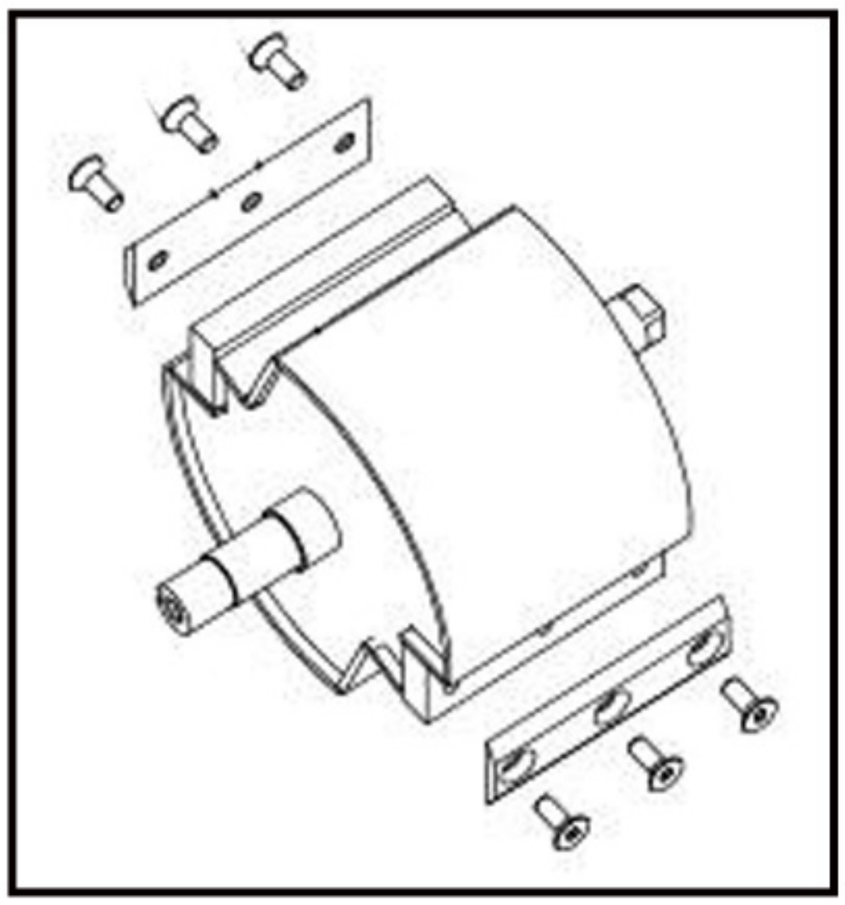
そのまま作業を繰り返すと、自動送り機能が働かなくなったり
排出するチップが荒くなったりしますので
交換をおこなってください。

1. メンテナンスカバーを開けます。
2. 刃が見える位置まで、切断ディスクを回転させます。
3. 刃を固定しているボルトとナットを取り外します。

※作業する際は粉砕作業直後を避け、熱が無いのを確認し
　刃物を扱うことに十分に注意し、必ず手袋を着用してください。

4. 切れ味が落ちたナイフや損傷したナイフを取り外し、
切断ディスクのスロットおよびナイフ取り付け部を目視で点検します。

取り付け面がきれいであることを確認し、
新品または研磨済みの刃を、
刃先を上に向けて再度取り付けます
刃がカッティングディスクに隙間なく密着するように
取り付けてください。



・注意事項・

カッティングディスクの表面が適切に清掃されておらず、
刃がディスクに密着していない状態で固定具を締め付けると、
刃が割れる恐れがあります。
刃と摩耗板（ウェアプレート）との隙間は、
ローターシャフトに最も近い位置で約1mm、
最も遠い位置で約3mmになるようにしてください。
木材に食い込む際のカッティングディスクのわずかな動きを
許容するため、隙間は外側に向かってわずかに広がるような形状
（テーパー状）になっています。
すべてのロックナットが適切に締め付けられていることを
確認してください。

整備または調整後は、棒を使ってカッティングディスクを回し、
異音・カチカチ音・振動がないか注意深く見て聞いてください。
いずれかが確認できた場合は、始動前に機械の損傷や
部品の緩みを点検し、修理・交換・増し締めを行ってください。

定期点検票

いつも安全な状態で作業をおこなえるように、
この定期点検表を活用して点検をおこなってください。
点検や整備を怠ると事故や故障の原因になる場合があります。

点検項目		チェック項目と点検内容		点検頻度
エンジン	エンジン本体	かかり具合、異音の発生	始動の際、問題ないか？	作業前
		回転数と加速	回転をあげてなめらかに回転するか？	作業前
		排気・ガス漏れ	排気臭、排気音は正常か？	作業前
		エアクリーナーの状態	取付部分の緩み・損傷や汚れがあるか？	作業前
		シリンダーヘッド・各締付箇所	ガス漏れや亀裂、腐食の確認	年に数回
		エンジンまわりの亀裂変形	エンジンに亀裂や変形などの症状	作業前
		各ボルト・ナットのゆるみ	ボルト・ナットに緩みがあるか？	作業前
	オイル	油量・汚れ	オイル量は適切か？汚れや混入はあるか？	作業前
		油漏れ	オイルシール・ガスケットに漏れがあるか？	作業前
	燃料関係	燃料漏れ	燃料の漏れはないか？	作業前
		燃料フィルタの詰まり	目立つ汚れ、変形、目詰まりはあるか？	毎月
		燃料の量・燃料の質	燃料は入っているか？古いガソリンか？	作業前
	空気清浄	エアクリーナーの汚れ・破損	エアクリーナーとフィルターの掃除、破損の確認	作業前
	冷却関係	リコイルカバーの目詰まり	リコイルカバー等がチップで詰まってないか？	作業前
		マフラー部へのゴミの堆積	ゴミが堆積していないか？	作業前
動力伝達装置	ベルト	緩み	ベルトの張り具合は適切になっているか？	作業前
		損傷・汚れ	亀裂や汚れ損傷のチェック	毎月
	ミッション	異音・以上発熱	作動に問題ないか？異音や発熱はないか？	毎月
		油量・汚れ	オイル量は適切か？汚れや混入はあるか？	年に数回
		油漏れ	オイルシール・パッキン等に漏れはないか？	作業前
車体	ボディカバー	亀裂・変形・腐食	フレームの亀裂、変形があるか？	毎月
		取付ボルト・ナットの緩み・脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落のチェック	毎月
レバー	レバーワイヤー	レバー・ワイヤーの損傷、緩み	作動確認、取付状態、損傷や痛み	年に数回
		ガタつき、割ピンの欠損	がたつきや脱落のチェック	毎月
走行	クローラ	亀裂、損傷	亀裂、損傷、摩耗はないか？	作業前
		ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか	作業前
		異音・ガタつく	取り付け部に異音、ガタつきはないか	毎月
チッパー	投入・排出シュート	投入シュート内の異物混入	確認と、カバー奥のチェック	作業前
		排出シュート内の異物混入	排出シュート内部のチェック・清掃	作業前
	刃シャフト	刃の欠損・曲がり・摩耗	刃の欠損、曲がり、摩耗のチェック	異常時
		カッティングディスクの異音や振動	ウェアプレートの曲がり、刃が欠けてないか？	異常時

困ったときは

主に起きやすい原因と対処法を一覧にしています。
他の原因が発生したときはお問い合わせください。

起こった事	可能性のある原因	処置方法
エンジンがかからない…	燃料コック・チョークが〔閉〕になってる。	〔開〕にあわせる。
	プラグカバーが外れている	プラグカバーを被せる。
	点火プラグの劣化	点火プラグを交換する。
	燃料が少ない、入っていない	ガソリンを補充する。
	エアクリーナーが汚れている	オイルの交換・エアクリーナーを掃除する
ベルトが滑る…	ベルトの張りが弱い	ベルトの張りを調整 問題があればベルトの交換する。
	ブレードシャフトにごみが付着している	ごみを取り除く。
	プーリーにゴミが付着している	プーリーを掃除する
	ベルトの摩耗	ベルトを交換する。
変速ギアがきかない…	ギアの位置がずれている	変速レバーを取り付けなおす
	ギアの不具合	ギアの修理をご依頼ください
粉砕が弱く感じる…	回転速度が速い	スロットルを低回転にする。
	回転速度が遅い	スロットルを高回転にする。
	ウェアプレートの摩耗・刃損	ウェアプレートを交換する。
	汚れの堆積	汚れを清掃する
普段より振動が大きい…	ウェアプレートの摩耗・接触	ウェアプレートの調整または交換
	刃の摩耗・刃損	新しい刃と交換する。
	ベルトの破損	新しいベルトに交換する。
	ゴミが付着している	取り除く（掃除する）。
普段より粉砕作業の効率がよくない…	エンジン回転が低い	エンジン回転数をあげてみる
	作業速度が早く感じる	作業速度を落としてみる。
	カッティングディスク周りにゴミがたまったり巻きついている。	ゴミを取り除き、カッティングディスクがスムーズに回るか確認する
	投入口、排出口からのゴミでカッティングディスクが詰まる	ゴミを取り除き、カッティングディスクがスムーズに回るか確認する
	排出シュートが詰まっている	ゴミを取り除く
作業中にオイルまたは栓がとびだす	ミッションオイルの入れすぎ（内圧過上昇）	正規のオイル量に調整する。

エンジンの不調

エンジンの不調かな？と思ったときこの表で診断して、
適切に処置をおこない不調のまま作業を行わないようにしてください。

起こった事	可能性のある原因	処置方法
エンジンがかからない…	エンジンスイッチが ONになっていない	エンジンスイッチをONの位置にする。
	チョークレバーを引いていない	エンジンを冷却後チョークレバーを引く
	燃料が流れない	燃料タンクとキャブレターを 点検して中にある不純物や水分を 除去する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
	寒い時にエンジンの回転が重い	オイルの粘度を状況に合わせ使い分ける
	点火プラグの不調	プラグの電極の隙間を点検、調整する または、新品のプラグと交換する
	緊急停止ボタンが入っている	緊急停止ボタンの解除
エンジンの出力不足…	燃料不足	ガソリンを補給する
	古い燃料を使っている	新しい燃料と交換する
	エアクリーナーの汚れ、詰まり	エアクリーナーの清掃・フィルター交換
	冷却系統の目詰まり	リコイルスターター周辺を掃除する
突然エンジンが止まる	燃料不足	ガソリンを補給する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
作業中しばらくすると エンジンが 止まってしまう	点火コイルの不良	点火コイルを交換する
	燃料フィルタの目詰まり	燃料フィルタを掃除する
排気に刺激臭がある	燃料の劣化	新しいガソリンと交換する。
	古い燃料を使っている	新しいガソリンと交換する。
マフラーから黒煙がでて 出力が低下する	エアクリーナーの目詰まり	エアクリーナー廻りとフィルターの掃除
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを調整する
マフラーから白煙が出る	エンジンオイルを入れすぎている	エンジンオイルを正規の量に調整する
	シリンダ・ピストンリングの摩耗	ピストンリングを交換する
エンジンの回転数が 上昇しない（安定しない）	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを調整する
	燃料の劣化	新しいガソリンと交換する。
	古い燃料を使っている	新しいガソリンと交換する。

原因が分からないときはお問い合わせ（ご相談）ください。

刃の摩耗・交換の目安

本製品は高速で回転する刃を使い粉砕作業する機械です。
刃が曲がってたり欠損した状態で作業をすると
本体の振動や故障、重大な事故の原因となります。
始動前の点検は重大な事故、
故障を防ぎ安全な作業をするためにも必要な作業です。
刃の欠損や曲がりが生じた状態や目に見えて摩耗した時など
刃の交換の目安になります。
摩耗の場合は回転方向に対し反対側の刃が使える場合は
刃の向きを変えて作業がおこなえます。
欠損や曲がりが生じた場合は速やかに交換してください。

寒冷地での使用について

冬季は作業後必ず本機械に付着した泥や異物を取り除き
固い路面上（コンクリートやアスファルト等）に駐車してください。
付着物が凍結すると故障の原因となります。

凍結して運転不可能となった場合は、無理に動かさず
凍結箇所をお湯や溶剤で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってから
運転作業をおこなってください。
(無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますのでご注意ください)

お問い合わせ

■輸入販売元　株式会社グレス
■連絡先　gress@gress.click
■所在地　千葉県市原市金剛地1479-2

LINEアカウント

■公式LINEアカウント（アウトドアショップグレス）
右のQRコードを読み取って友だち登録してください。
画像や動画のやり取りをする場合はLINEを推奨致します。

弊社ホームページ

■株式会社グレスホームページ（https://www.gress.click/）
取り扱い説明書がダウンロードできます。

■株式会社グレスYOUTUBE
商品に関連した動画をご覧いただけます。

YOUTUBE

GRESS
株式会社グレス